

2021年12月定例会の特徴、反省点ならびに議会改革課題について
(12月臨時会、1月臨時会含む)

2022年10月12日(水)

提出委員：会派・友和
(奴間健司)

1 定例会の特徴

- ① 11月30日から12月15日まで開催。
- ② 9月定例会の最終日に提出された第5次基本構想案について、初日の本会議で委員長報告、討論、採決が行われ賛成多数で可決した。委員長報告に盛り込まれた6点の提言は、12月15日の全協を経て市長に提出された。
- ③ 11月30日の本会議の場で市長はゼロカーボンシティ宣言を発した。
- ④ 18歳以下一律10万円相当支給について、補正予算で5万円分を可決した。12月15日の閉会後に国から通知があり、一括10万円現金支給となり、閉会后二日目に異例の臨時会招集となった。

2 定例会の記録と反省点について

① 本会議

ア) 初日(11月30日)

- a. 総務委員会の閉会中の所管事務調査報告の中で、薬王寺インキュベーションに関し、収支見込計算書が10月25日になって提出されたことについて遺憾であると指摘。また校区コミュニティの方針転換について総括を求めたことも明らかになった。
- b. 委員長報告の途中でマスクを外す場面があった。アクリル板が設置されていることから適切な対応と思う。
- c. 第82号議案・第5次基本構想について委員長報告が行われた。
討論では、内場議員が反対、森本議員、奴間が賛成の立場で討論。
採決の結果、反対1、賛成17で可決した。
反省点として、提言するのであれば付帯決議とすべきだった。
- d. 市長はゼロカーボンシティ宣言を発した。議案ではなかった。

イ) 本会議・二日目(12月2日)

- a. 大綱質疑が行われた。

奴間が、第88号議案・一般会計補正予算に対し大綱質疑を行った。3回目ワクチン接種の全体像、オンデマンドバスの全体構想、薬王寺インキュベーションの管理運営委託について市長の認識を求めた。特にワクチン接種は焦眉の課題であり、市としてどう進めるのか見解を求めることは必要不可欠であった。特に8か月基準の前倒しが論点だった。(これは12月21日に国から通知が発出され、1月に入り一部具体化されることになった。)

吉住議員が、第96号議案・市道路線の変更について大綱質疑を行った。

- b. 補正予算審査特別委員会を設置した。吉住委員長、紙谷副委員長。

ウ) 一般質問 (12月10日4人、12月13日4人)

a. 12月10日は2人の欠席、1人の遅刻があった。

b. 議員個人での一般質問だが議会として調査研究を継続すべきテーマもあった。

(例) 生理の貧困問題対応の全学校での対応、ゼロカーボンシティ宣言と具体策、公共施設総合管理計画第1期アクションプラン案の現状やマネジメント推進本部の審議内容など。

c. 一般質問の意義を再確認する必要があると感じた。

議会としては議案審議が最も大きな課題であり責務である。本来は議案審議で取り上げるべきテーマはなかったか。

また常任委員会での所管事務調査は事業の進捗チェックや改善提案の意義がある。本来は所管事務調査で取り上げるべきテーマはなかったか。

その上で一般質問を行う場合、政策提案型をどう目指すかが課題と言えるのではないか。

(参考) 12月18日の西日本新聞「風向計」では一般質問の5パターンを指摘。事実確認型、ヨイショ型、自説披露型、問題追求型、政策提案型。議員がチームになって質問力を高める必要があると指摘していた。(前田隆夫記者) 4ページ参照

エ) 最終日 (12月15日)

a. 討論が行われた。

84号議案(予防接種健康被害調査委員会) 奴間が賛成討論。

94号議案(病後児保育廃止) 奴間が賛成討論。

86号議案(国保税) 内場議員が賛成討論。

75号議案(国保決算) 内場議員が反対討論、

88号議案(一般会計補正) 田中議員、内場議員、奴間が賛成討論。

b. 98号議案・一般会計補正予算(第7号)が追加提案。18歳以下5万円現金給付。

内場議員、吉住議員、奴間が質疑。

吉住議員、奴間、内場議員が賛成討論。

課題として、最終日の追加提案について、会期の延長、特別委員会の設置・付託という選択肢もあることを共有しておきたい。

②常任委員会

ア) 市民建産委員会 (12月3日) 付託議案を審査、可決。

イ) 文教厚生委員会 (12月6日)

a. 94号議案、84号議案、94号議案を審議。

b. 所管事務報告。3回目ワクチン接種について。前倒しの可能性。

県との覚書締結、コロナ自宅療養者の生活支援。

会期中の所管事務調査結果を最終日に行うべきであった。

c. 花鶴小学校視察を行った。

ウ) 総務委員会 (12月7日) 総務課、人事秘書課の報告。経営戦略課から報告なし。

③補正予算審査特別委員会（12月8日）

ア) 平木議員、伊東議員、田中議員、内場議員、奴間、村松議員、の6人が質疑した。オンデマンドバスに質疑が集中した。奴間は体成分分析装置、第3回目のワクチン接種について質疑した。

イ) 一般会計補正予算で奴間、内場議員が賛成討論。

国保特別会計補正で内場議員が賛成討論。賛成全員で全議案を可決した。

ウ) 今後の課題だが、指摘事項、付帯決議などを確認することが必要ではないか。
質疑するだけで原案を可決すれば審査の意義はあるのだろうか。

3 臨時会について（12月17日）

ア) 3人が欠席。しかし専決処分ではなく議会に諮られたことは良かったと言える。

イ) 第99号議案・18歳以下現金10万円一括支給。

12月15日に国から通知された資料(Q&A)は議運での求めに基づき事前に配布された。定例会閉会后2日目の臨時会となった理由。12月15日の午後、国から通知が届いた。年内に現金で10万円一括支給に問題ないと判断したこと。

ウ) 吉住議員、奴間が質疑。

エ) 平木議員、村松議員、奴間が賛成討論。賛成全員で可決した。

一括現金10万円支給を評価、職員の努力を評価、高校生や公務員の場合の周知徹底、国に対し問題意識を持って対応すること。改めての意思確認は不要ではないかと指摘。

オ) 今後の課題だが、臨時会でも会期を複数日確保したり、特別委員会の設置・付託という審議方法も選択肢にあるということを共有しておきたい。

4 臨時会について（1月11日）

ア) 議運での協議をふまえ、会期を1日とすること、特別委員会の設置・付託を省略し本会議での質疑、討論、採決という審議方法を選択した。

イ) 伊東議員、内場議員、村松議員、奴間が質疑した。賛成全員で可決した。家計急変世帯について質疑が集中した。

ウ) 臨時会といえども特別委員会の設置・付託という選択肢もあることは共有したい。会期を2日以上確保し、通告による質疑、特別委員会の設置・付託もありうる。

5 議会改革等の取組みについて

ア) 委員会会議録のホームページアップ イ) 委員会のインターネット中継配信

ウ) 2022年度議会費について会派として以下の点を要望した。(9月30日提出)

- ①新型コロナ感染症対策として、空気洗浄機、非接触型体温測定器、血中酸素濃度測定器、消毒液、マスクを購入に係る予算
- ②議会棟のWi-Fi環境の整備に係る予算
- ③委員会録のホームページアップに係る予算
- ④第1委員会室と第3委員会室の壁を撤去し、第1委員会室を広くする工事に係る予算



福岡県大任町議会がこの6年間、一般質問が一度もないと伝える記事に驚いた。議会機能の放棄に等しい。

一般質問は全議員が集まる本会議(公開の会議)で、希望する議員が首長側の施政を問う機会だ。一般に年4回の定例会で日程を組む。これを聞けば、議員の問題意識や議会の力量がだいたい分かる。

質問の内容はいくつかのパターンに分類できる。

①事実確認型 人口の推移のように、調べればすぐに分かることを聞く。数字と対策を聞いたからおしまい。

②ヨイシヨ型 なぜか首長を殊更持ち上げる。決まり文句は「前向きな答弁をいただいた」。首長に立候補表明を促す質問もこれに当たる。

③自説披露型 長広舌を振るう割に、肝心の質問の本身が乏しいことが多い。

④問題追及型 行政の手が届いていない課題や、不適切な予算の使い道に切り込む。

チームで磨く議会質問

たまに政争が絡んで感情的なやりとりになることも。

⑤政策提案型 課題を指摘するだけでなく、改善策を具体的に提示できる。地域の実情に詳しく、政策を学んでいる議員だと説得力がある。

複数のパターンの組み合わせもあるが、①②③ばかりの傍聴は退屈する。④⑤が少ないのは「首長に厳しく質問するのを気兼ねする議員がいるから」(福岡県内の議員)という事情も見え隠れする。

一般質問をチームワークで進化させている議会もある。黒田官兵衛ゆかりの兵庫県

前田 隆夫 21.12.18

西脇市の議会は、住民の声を質問に反映させる。議会報告会や懇談会で住民から聞いた困り事、市政への提案を常任委員会で検討し、委員会所属の議員が分担して質問する。最近では伝統工芸品・播州織の知名度向上策、ネット環境の整備を取り上げた。

さらに答弁を委員会でも議論し、対案を出すこともある。一連の経緯は報告書にまとめ公開する。こうすれば一般質問はその場限りの質疑応答に終わらない。

林晴信議長は言う。「一般質問の答弁は、事前に練られ

た市の公式見解なので重みが違つ」。だから質問はおろそかにできないのである。

福岡県添田町議会の有志は定例会の前に一般質問検討会を重ねている。考えている質問を出し合い、複数の視点で磨きをかける。

優れた個人プレーも大いに結構だが、議員がチームになって質問力を高めると、行政監視や政策提案といった議会機能が強くなる。首長に遠慮はいらない。「わがまちの議会は十年一日のごとし」では住民に見向きもされなくなるだろう。

(論説委員)